

10月の生活表

2024年 10月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：＜3歳児＞：心はずませて

保育日数（22日）

月目標：・いつも神様に守られ、力をもらっていることを感じる

- ・走ったり、跳んだり、踊ったり、いろいろな遊びで身体を動かすことを楽しむ
- ・好きなことで遊ぶ中、何度も繰り返したり試したりしながら夢中になる

月主題：＜4・5歳児＞：共感する

月目標：・神様がくださった自分自身、友だちの良いところ、苦手なことを知り、受けとめながら過ごす

- ・友だち同士考えを出し合って遊ぶ中、明日もやりたいという気持ちをもつ。
- ・心地よい秋の自然の中、季節の変化（風や草花、虫の声など）を感じていく

漸く朝晩には涼風を感じつつも、まだ暑さの残る今夏です。1日の気温差による体調の変化にご留意ください。そして夜にはご家族で耳を澄まして、いろんな虫の声を楽しんでみませんか。

2学期も早1ヶ月が過ぎ、いよいよ子どもたちの内面の成長が増長される時がやってきます。子どもたちはどのようなことに「心弾ませる」のでしょうか。それぞれの心が弾んだ時、子どもたち同士の身体はどのように共感するのでしょうか。子どもが心弾ませることは、自分の好きなことに無心に取り組んでいる時、何かのことに自らが取り組もうとしている時、与えられた環境に心弾ませ、楽しいと感じながら取り組んでいる時、何かに挑戦してうまく行った成功体験や失敗したけれど再挑戦して自分のモチベーションを高められた時などいろいろありますが、無心に遊びに没頭している時こそ、子どもたちの心が弾んでいる時なのですね。その姿を見た周りのお友だちは「楽しそう」「おもしろそう」「自分もやってみたい」と模倣が始まり、自分の中で消化しながら自らの遊びを広げ、あるいは友だち同士で影響を与え、「共感」しながら遊ぶ楽しみの中で、心の動きが養われるように思います。この2学期は、3歳児での「生活」が自分できることはやってみるというその気持ちへの養い、例えばおむつからパンツへの移行（自立にとっても大切です）。4歳児での基本的生活習慣を確立しつつ側にいるお友だち・先生（大人）を感じながらの「社会性の芽生え」から確立への道を辿り、さらに年長は、自分で責任を持つことに始まり、人の為に何かをしてあげること、絵本や素話を通して語彙が増えていくこと、体感が鍛えられつつ自分の体を思うように動かすことができるようになってくこと、文字や数字（足し算・引き算・数詞を使つての数え方）に興味関心を示し、さまざまな方法で自己表出できるようになってくこと、物事を推測したり、抽象的な物事にも対応してみたり、さまざまな場面での理解力を得る為に、誰かが話しをしている時には傾聴できること、まだまだありますが、今の内に小学校を意識しつつも思う存分遊びに没頭してほしいのです。指示型の「サイ君」ではなく、やるぞ!!の「ゾウさん」を育てることで、個々の主体性が担保され、心弾み、互いに共感できるというものです。フレーベルも大切にされた「砂遊び」：「こどもがまんなか新聞」を読まれたでしょうか。砂の持つ魅力は、水と一緒にになると子どもたちは感触を確かめながらもっと面白くなり夢中になりますね。運動会終了後にはお庭に新しい土を入れ、子どもたちの「弾む心」を応援いたします。しかし、水と泥の脅威に遭われた方へのお悔やみも忘れずにお祈り致しましょう。

《チャレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：わたしは道であり、真理であり、命である

月聖句：一人よりもふたりが良い。（コヘレトの言葉4：9）

分厚い旧約聖書のちょうど真ん中あたりに、「コヘレトの言葉」と言う、小さい文書があります。これは聖書の中でも、極めてユニークな文書です。冒頭に「空の空、空の空、一切は空である」という言葉が記されており、その後も、人生の空しさ、やるせなさを、延々と記しています。まるで、仏教文書のようにです。

聖書は全体として、「神様がおられるから大丈夫！」と言う価値観で記されています。正義の神様が共に居てくださるから、自分の行った正しい行動は正当に評価され、また誰かが行った悪い行動には、それにふさわしい罰が与えられる、と考えています。けれども現実には、正義が通らないことも、少なからずあります。「正直者が馬鹿を見る」ような状況もあります。そのような現実の厳しさに、真正面から取り組んだのが、この文書です。その結果、「個人的な努力が必ずしも報われる訳ではなく、安易な慰めは希望にならない」というメッセージが多く記されることになりました。

けれども、どれほど悲観的に世界を見ても、どうしても拭い去ることのできない希望があるのも事実です。その文書はこの事実もしっかりと見つめています。その希望の一つが、今月の主題聖句です。一人ではなくじけてしまいそうな時も、みんななら、せめて二人だけでも居てくれたら、乗り越えられる、と言っています。

この様な希望が、この文書にはいくつか記されています。その中で有名なものをお伝えします。「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」（3章1節）辛い時はいつまでも続くわけではありません。必ず希望と喜びの時が来ます。これも事実なのです。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆秋の自然を見つけてみましょう。

- ・ 木の葉・木の実・草花・虫・果物・空・雲・風etc.身の回りの自然に目を向け、季節の変化に気づき、自然の不思議について考え、自ら関わる事で親しみをもちましょう。（親子で自然物を使って、何か良いものを作ってみませんか）

☆運動会を機会に身体全体の様々な運動に対し、取り組む意欲を養い、子どもの発達を注視し、成長を促してみましょう。

- ・ 運動会はひとつの機会にすぎません。日々の機会がどこにあるのか、また機会をどのように捉えてみるのか、基本的な体の動きを確認しながら、親子で楽しんでみましょう。
- ・ まだまだ暑い日中です。日々の気温を考えながら、戸外での遊びを親子で楽しみましょう。例えば、ボールころがし・キャッチボール・ボールつき・バトミントン・大縄跳び・縄跳び・ケンパ・鉄棒・フットサルetc. ゆったりとした時間を作り、お父さんお母さんの幼児期を思い出し、近くの公園で一緒に遊んでみませんか。
- ・ 身体を動かす基本動作（跳ぶ・走る・渡る（側溝の上等も）跨ぐ・潜る・でんぐり返り（前転と後転）・転がる（横転）・背伸びする・線の上をつま先歩きする・両足跳び・けんけん・ギャロップ・スキップetc. 家の内外で沢山その機会を捉えてみましょう。
- ・ 手先の動作（巧緻性＝器用さ）もとても大切です。

クレヨンでしっかり色が塗れる（はみ出さずに、白い所が無くなるまで、しっかり色を塗る事ができるetc. クレヨンを塗る力加減で鉛筆や消しゴムが上手に使えるようになります。）

はさみを使う（どれだけ線に沿って切れますか。どちらから切り始めていますか。反対の手はどのように添えていますかetc.）

じゃんけん（指1本ずつがしっかり動かせますか？）が出来ますか？

（勝ち負けの意味がわかりますか。）

お箸が使えますか（お箸・スプーン・フォークの使い分けが出来ますか？）お箸

もスプーンも正しい持ち方で＝花組でも十分に使いこなしている園児もいます。
勿論個人差はありますが、例えば、エジソン箸よりも、ことばを添えて根気よく
方法を教えて下さる方がよいでしょう。

☆2学期は各学年で子どもが個人差を確認しながら、各々に大きく自立しようとする大切な時です。

- ・ 保護者は、自律＝自立の意味（自らやってみようとする意欲が大切）をしっかりと把握しましょう。
- ・ 愛情を注ぐことと言いなりになることとは意味が違います。（親の手を出さない我慢が大切です）
- ・ 子どもが自立するという事の意味はいっぱいあります。「しっかりしてほしい」といいつつ……。口と一緒に手を動かし、助けてしまっていないですか。
- ・ 大人もしっかり返事や受け答えをしてみましょう。大人の意見を押し付けたり、何も気にせず通りすぎない様に。
- ・ 子どものお話にゆっくり耳を傾け、同じ方向を向いて話を深めてみましょう。
- ・ 「ハイ」の返事や「あいさつ」がなかなか出にくいですね。呼ばれたら返事をし自分の存在を伝えられるように。また、ご挨拶が出憎いですね。挨拶は人とのつながりの為にはとても大切な言葉です。
- ・ 相づちが打てません。自分の意志が十分に表現できますように。
- ・ 大人が大切な話をしている時には、子どもが我慢する事も必要です。
- ・ お話ししている時は相手の顔を見るようにしましょう。
- ・ 様々な場面展開に対応出来るように、大人は言葉掛けに工夫してみましょう。

☆社会（国際・日本・都道府県＝郷里・地域など）の事象に触れてみましょう。

- ・ 社会事象から、世界〇〇〇など様々な報道がされています。地球儀や地図等を真ん中に、顔を寄せ合って自分の存在地点（国、他国）を確認してみましょう。
- ・ 大人は子ども達と話題を共有することにより、子どもに合わせて解りやすく説明してあげることが必要です。絵本・新聞・テレビ等を通して、ちょっと時間を作ってみませんか。
- ・ 身近な地域の人たちとの接触も大切です。町内の行事等にも参加し交わってみましょう。

☆体調を気遣いましょう。

- ・ まだまだ暑い日々です。気温の差に対応し、こまめに衣服の調整しましょう。
（ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。）
- ・ 上着は保護者が持ち帰らず子どもにお預け下さい。（自分のものとして処理できる様に）

〔クラスだより〕

＜花組＞

秋はいいな～♪の歌をそろそろ歌おうかな～と思ったら、また暑さがぶり返したり、ここ近年の気候の変動になかなか身体が追いつきませんね。とはいえ、漸く朝夕に涼しい風が吹き、心地よさを感じたり、青空を見上げると秋の雲が見られたり、季節の移り変わりを感じられるようになりました。そんな心地よい季節、花組もやっと安心して園庭遊びへと動き出すことが出来ました。子どもたちは本当に楽しい！を全身で表現し、「楽しいね～」「また行こうね～」とお友だちに話しかけ、共感し合う姿が見られて、まさに今月の月主題である「心はずませて」を体現していると感じました。

運動会への導入として、様々な運動遊びにチャレンジして、子どもたちの身体の動かし方や発達状況を見ながら、繰り返し取り組むことで出来そうなのか、「楽しい！」と「楽しかった～」という活動になっているのかを確認することからスタートしました。子どもたちには、とにかく身体を動かすことの面白さや楽しさを感じながら、自分の身体を思うように動かせる心地よさや、出来たことへの達成感を味わい、出来た！出来る！の自信に繋がることが出来るようにと考えています。そして、導入からいよいよ練習へとステップアップ！赤帽白帽のチームに分かれて、みんな早く被りたかった嬉しい赤白帽子を被って！順番に並ぶこと、自分の前うしろのお友だちは誰なのか？赤帽・白帽と2つのチームに分かれることで、自分と誰が同じチームなのか・覚えることや考えることが沢山あります。どれもこれも遊びを通して覚えていくことから始めていきますが、運動会の練習は、どうも『自分だけ』が良ければ良いのではないということ、「小花ちゃんは？」「〇〇ちゃんがんばれ～」「〇〇ちゃんこっちだよ！」と、お友だちのことを意識するということ。また、赤組・緑組さんの姿を見て興味関心を持つこと。「すごい！」「頑張ってる～！」と応援するという人を思う気持ち。同じ赤帽・白帽チームの赤組さんや緑組さんの競技での勝ち負けに一喜一憂するということ。子どもたちが運動会という行事を通して、色々な経験をして、様々な思いを抱いて・・・成長してゆくであろう大切な毎日をしっかりと支えてゆけるようにと思います。

さあ！今年も残すところ3ヶ月です！その3ヶ月の間に盛り沢山の園生活が待っています。運動会を終えたら、可愛い小花ちゃんの女の子を迎えて20名となります！楽しいことも嬉しいことも20倍！！それって凄い！引き続き子どもたちの笑顔一杯の2学期になりますように、ご家庭との連携を大切に二人三脚で子どもたちを真ん中にしっかりとした足取りで歩んでゆけるように、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

＜赤組＞

「暑すぎてもう溶けそうだよ～」と残暑の厳しさと戦いながら2学期が始まりました。秋の涼しさを期待して待っていたところ、ようやく夜風が冷たく、朝晩は気持ちの良い気候となりました。夜になるとコオロギやスズムシなど、秋の虫たちが大合唱しており、すっかり「秋」が感じられるようになりました。

聖マリア幼稚園での「秋」には「運動会」があります。運動会と聞くと、勝ち負けのある競走のイメージが強いかもしれませんが。勝ち負けにこだわるのではなく練習の時から「出来た！」を楽しみながら感じ、今後の自信に繋げて、達成感を味わえたらいいなと思います。今年の赤組さんは、1人ずつスタートし、4つのことをクリアして帰ってくるという競技を考えています。また、緑組さんをご一緒させてもらい活気溢れる競技や可愛いダンスなどもあります。一人ひとりの頑張る姿、そして可愛らしい姿をご覧頂けたらと思います。どうぞお楽しみに！

さて、運動会に向けての練習は毎年並ぶということから始めます。自分は何チームで、誰と一緒に、前後は誰であるのかを覚えることはもちろん、先生が呼んでいる人を聞き分け自分が該当していると判断し行動に移すなど、ただ並ぶという事でも集中していないと出来なくなってしまうのです。これは運動会に限らず普段の生活にも関わることです。2学期が始まり、1学期に成長した部分を伸ばしながら更なる成長を促せるように子どもたちと向き合って接してきました。進級して半年が過ぎようとしています。何でも大人が手伝うのではなく自分の事は自分で出来るように、言われてやるのではなく自ら気がついて行動することを願い「次〇〇するんだよ」と言ってしまう私の口を少しストップしてみました。わからない、出来ないから大人が声をかけるまで待つのではなく子どもたちから発信し、思いを伝えられるようにもなって欲しいのです。また、行動するためにも聞く姿勢も整えて欲しいとも思っています。最後まで聞き取らずに行動して自分が困る、間違えたという経験もして意識を変えていけるようにと考えています。少しずつ知らせていますが、こんな場面もありました。今は聞く時と示した後、まだお話がストップ出来ていなかったお友だちに注意をし、私が少しピリッとした雰囲気を出していると他の子も気がついて姿勢を正したり、後日、聞こうと意識が変わってきたお友だちもあり、今まで気が付いてもお友だちに教える勇気が出なかった子どもでも「あっちだよ」と教え合う姿がありました。嬉しい場面で、確実に成長をしている子どもたちです。メリハリのついた生活をちょっとずつ増やしながら、もちろん笑いに溢れた楽しい毎日を赤組さんでこれからも過ごしていこうと思っています。ご家庭でも何か変化があったり、困り事などがありましたら、いつでもお声かけください。ご一緒に考えさせていただきたいと思います。

このように、子どもたちは一人ひとり、みんな、日々頑張り、確かな成長をしています。些細なことでも気がつけるように見守り、認め、褒め、充実した秋の幼稚園を赤組さんと一緒に過ごしていきたいと願い、そしてその喜びを保護者の皆様とも分かち合いたいと思います。 これからの赤組さんの成長が楽しみです！

＜緑組＞

お昼の時間、子どもたちより遅れて食事を始めることが時々あります。そんなとき私が席に着くと近くにいる子たちが「せんせいのこともう抜かしたで！」と得意気に話しかけてくれます。「先生が後から食べ始めたんやから、「抜かした」はちょっと違うなあ」というやり取りは結構あります。抜かすというのは後から来たものが前に居るも

のを追い越すということ。子どもたちが遣う言葉の未熟さは可愛くもあり、時には言い間違いや伝え方を教えていかねばならないこともあります。伝え方...でいうと「先生、さっき〇〇ちゃんが もう仲間じゃないって 私に言った...」と相談にくることがありました。「〇〇ちゃん...なんだか悲しい報告あったんだけど...」と私は〇〇ちゃんを呼び止め、話を聞きます。「悲しい報告」と聞き、何かしら神妙な顔つきで私の前に来ると、自分で「もう仲間じゃないって言った」と話してくれました。もしも言ってはならないことを友だちに発してしまったのなら、子どもたちからは、なかなか言い出しにくいものです。でもこの時、私にこのことを教えてくれた時点で、きっと何か意図するものがあるのだろうと察して、更に尋ねました。「それってもう遊びたくない!とか、嫌いっていう気持ちで言ったの?」と聞くと、大きくかぶりを振って「違う」と答えました。この時、子どもたちは「今一緒に本を読むのをやめよう＝仲間にいるのはやめよう」という意味と「仲間にいることをやめよう＝もう一緒に遊ばない!」という理解とで食い違っていました。互いの気持ちを私（時には友だち/大人/親）が仲介することで、聞き取った言葉からだけでは分からなかった意図を伝え合い、モヤモヤした気持ちが少し軽くなって、しばらくすれば普段通り「仲間」に戻り遊びだす姿がありました。子どもたちは、既に言葉の遣い方だけでなく、その場の雰囲気や相手の表情や状況を察することで意思疎通を図っています。そのどれかが足りないとき、十分でないとき...行き違いが生じやすいのです。例えば...連休を終えた週明けに「お休みの間に何か楽しいことはありましたか?」と尋ねると...子どもたちから声がすぐにあがります。「温泉～」とか「大阪～」とか「遊園地～」とか...「そうかぁ いい所いったんだねえ。そこで何したの?」「おじいちゃんにあった～」「観覧車にのった～」「魚釣りとかした～」「誰かと一緒にいったんでしょ?」「おか～さ～ん」「みんなで～」...と一問一答のやりとりをする中で、「あのさ、今の先生とのやり取りを、一回でお話出来る人いる?」聞いてみると...「えっと、家族で動物園の観覧車とか乗り物があるところで、遊んで、めっちゃくちゃ暑かったから、アイスクリームを食べて帰りました」と....!「うん!それ分かりやすい!先生がいろいろ聞かなくても、どこで何を誰としてきたのかよくわかる!」。相手が大人なので、子どもたちが伝えようとすることは、くみ取ることが大体できます。一方で、これから、子どもたちは子ども同士のやり取りが圧倒的に増す社会へと出ていきます。その前に自分の気持ちや考えを伝える言葉を獲得し、獲得したその言葉を活かして伝え合う（やりとり）ためにも、単語だけの発信を主語と述語からなる文章へ...と繋がって欲しいなぁと考えています。幼稚園生活も半年を過ぎ、就学に向けての準備も具体的に進み始める時期へと差し掛かってまいりました。各々がおかれる環境に、自信を持って進んでいけるように...と思います。

まずは、運動会!楽しみましょう!!頑張りましょう!!一緒に♪